

校長室より

二松学舎大学附属高等学校

校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」～ 一期一会 ～

平和と自然、人とのつながりを学んだ沖縄修学旅行

2年生の3泊4日の沖縄修学旅行に同行し、生徒たちとともに沖縄の歴史・自然・文化に触れる貴重な時間を過ごしました。

前半、平和祈念資料館、平和の礎、旧海軍司令部壕、ひめゆり資料館などを訪れ、戦争の悲惨さと平和の尊さについて深く考える時間を持ちました。資料館から出てきた男子生徒が「心が痛い」とつぶやいていました。戦後80年が過ぎ、記憶の風化が進む中で、「自分たちはこれから何をすべきか」を考えるきっかけとなったことでしょう。

また、道の駅かでなでは基地の街の現実を体感し、沖縄が抱える課題にも触れました。沖縄在住のガイドさんが「基地が存在することが住民にとって是非かは簡単には答えられない」と話していました。我々は沖縄のおかれた現状を知ることが大切です。

首里城、おきなわワールド、今帰仁城では歴史と文化を学び、マリンスポーツ体験やシーサーづくり、三線演奏、釣り体験などでは沖縄の自然と人々の暮らしを肌で感じました。直接、民家での生活を体験したグループからは「名残惜しい」との声が聴かれました。水族館や国際通りでの自由行動では、仲間と一緒に見どころを回り、学年独自のメタモジによる報告では、張り付けられた写真から楽しそうな雰囲気が手に取るように伝わってきました。

お土産を一杯抱えた生徒に那覇空港で声をかけると、「充実した旅行だった」と笑顔で答えてくれました。「土産物を買うお小遣いも、ご家族の支えで実現している」ことを忘れないでください。帰宅後は、ぜひお土産とともに旅の話をたくさんおうちでしてあげてください。それが何よりの親孝行です。

出発前に「旅の恥はかき捨て」という話をしました。少しの失敗を恐れず、前向きに人と関わり、積極的に学んでほしいという思いを込めての言葉です。皆さんの行動にはその精神が生きており、現地の方々にも好印象を残していました。

今回の修学旅行で得た学びや感動をこれからの学校生活できっと生かしてくれることでしょう。3泊4日、2年生76期生みなさんとともに過ごせたことを心から嬉しく思います。とても良い学年です。これからのさらなる成長を楽しみにしています。

